

## 令和4年度（大和東高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令遵守意識の向上（法令の遵守（高い倫理感の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶）、服務規律の徹底）	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行っている職員はゼロを目標とする。	i) 生徒指導、部活動、生徒相談の際は複数人で対応することで、事故防止及び情報共有を図れた。 ii) 管理職は、授業や部活動の様子、教科準備室等の利用状況を日常的に巡視し、安全及び適切に利用していることを確認した。 iii) 具体的事例を示して職場研修を実施し、職員に当事者意識を持たせた。また、生徒の連絡先の適正な取得・管理方法等について、定期的に点検を行い、徹底できた。 iv) 校長による個人面談を実施し、SNSの利用状況等を把握し、適正に利用していることを確認した。
(2) 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	人権感覚と規範意識、協働意識の向上を図る。	i) 相手を傷つける行為をしない、させないよう、適切なコミュニケーションについて日ごろから職員間で確認し合った結果、よい職場環境を維持でき、生徒対応も良くなるなど相乗効果も生まれた。 ii) 管理職による面談を実施した結果、職場のハラスメントも防止できた。
(3) 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為が生徒の人権を踏みにじる行為であり、決して許されないことを全ての職員が十分に理解し、人権に配慮した行動の徹底を図る。	次により、生徒へのわいせつ・セクハラ行為をゼロにできた。 i) ポスターを生徒の目につくところに掲示した。また教育相談の予定もわかりやすくするなど、生徒が相談しやすくなる体制をつくった。 ii) 生徒とのSNS等利用の禁止を徹底した。 iii) 生徒の連絡先の適正な取得・管理方法を徹底した。 iv) 教科準備室等に常駐しないことを徹底した。
(4) 体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権に対する配慮を怠ることなく日頃から適切な生徒指導に努め、体罰や不適切な指導を未然に防ぐ。	i) 教員が常に学び合い、指導力を高めることで、体罰を認めない風土をつくり、体罰によらない指導を充実させることができた。 ii) 日ごろから生徒の状態把握や保護者とのコミュニケーション等に努め、気になる生徒の情報を職員間で共有することで、組織的な粘り強い指導を行うことが徹底できた。 iii) 特に言葉による体罰を未然に防止するため、日常的な態度や言葉に留意する意識付けを推進し、人権感覚を高めることができた。
(5) 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアル等を厳守した適切な事務処理の徹底を図るとともに、管理職をはじめ全ての職員が職員同士の相互チェックに取り組むことで、事故防止に努める。	i) 入学者選抜業務における作業手順を徹底し、複数チェックを確実に行った結果、入力ミスはなかった。 ii) 調査書・推薦書の作成及び取扱いについては、組織的な点検を行い、事故を起こさなかった。

<p>(6) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策</p>	<p>個人情報の漏えい等のリスクは、常に身近にあることを意識して、ルールに従い適切に管理し、紛失、漏えい防止に取り組む。</p>	<p>i) 教務手帳の適切な管理及び定期考査処理期間のシユレクター使用禁止等の取組みを通じて、個人情報管理を徹底できた。 ii) 答案用紙・成績表・調査書などの重要な個人情報の受け渡し体制と管理体制を確認したことで、個人情報の管理を徹底できた。 iii) classroomなどツールで対策重要度Ⅲ以上の情報を扱わないなど、利用のルールを徹底した。</p>
<p>(7) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）</p>	<p>職員は情報共有に努め、業務協力体制と相互チェック体制を構築し、円滑な業務執行体制を整える。</p>	<p>i) 業務の遂行にあたっては、グループリーダーや学年リーダーを中心に報告・連絡・相談が円滑に進む業務体制を構築できた。 ii) 業務が特定の個人に偏らないよう、グループリーダーや学年リーダーの調整により、チームで業務を遂行する協力体制を築けた。</p>
<p>(8) 財務事務等の適正執行</p>	<p>県費、私費の迅速で適正な執行と、事故の未然防止に努める。</p>	<p>i) 年度当初に、私費会計のルールについて担当職員対象の研修会を行った。年間を通じて適切な会計を執行できた。 ii) 会計担当、管理職及び出納責任者（事務長）のチェックを徹底し、ミス情報を共有することで今後のミスを防いだ。</p>

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

令和4年度は、これまでの不祥事防止のしくみを確認、徹底することを重点にして取り組んだ。特に職場環境の改善に強く取り組んだことで事故不祥事防止に関する意識だけでなく、教員間相互の理解も深まった。5年度は多くの事例から学び、さらに不祥事防止に取り組む。